

ジュニア部門 〈母への想いに関する作文〉

小学生部門 佳作

母への想い

白山北陽小学校

高松稚菜さん
たかまつわか

〔応募動機及びコメント〕

私はお母さんのようなお母さんになりたい。私のお母さんはやさしいから、勉強では解けない問題のやり方を教えてくれるし、私のことを想ってくれます。だから、とてもやさしいお母さんにあこがれています。

暁烏敏賞に選ばれた時は、すぐくおどろきました。でも選ばれて良かったと思いました。

「いいなあ。」

テレビを見ていた私は思わずつぶやきました。テレビでは、私の好きな芸能人が、東日本大震災の被災地で、私と同じくらいの年れいの子たちと、あく手している姿が流れてきました。私もいろんな芸能人と会って、あく手をしてみたいなあと思いました。

でも、その考えはとても失礼なことだと後で気付きました。あく手をしてもらっている人の中に、お母さんをなくしたという女の子がいました。それなのに、涙を見せないで、一生懸命生きていこうという気持ちが伝わってきました。私はその女の子の身になって、どれだけ苦しいか、悲しいか考えてみました。

お母さんがもし、突然この世からいなくなったら、私はどうするだろうか、そう思うととても不安になりました。

私はよくお母さんに悩み事を相談します。この前は、ピアノが弾けなくて泣いた時、話を聞いてもらいました。練習しても、練習しても思うように弾けない自分に、腹が立ちました。悔しくて、でも素直になれなくてついお母さんに、八つ当たりしたのかもしれない。

そんな時お母さんは、決して私を叱りません。本当は、ちよつとやり過ぎた私をお母さんは、きつく叱るんじゃないかなと思いました。でもお母さんは、やさしい声で

「稚菜なら、大丈夫。」

と言ってくれました。それを聞いて、私は肩の力がスッとぬけていくようでした。予想もしない言葉でしたが、その時の私が一番聞きたかった言葉だったのかもしれない。次のピアノのレッスンまで時間がない、なのにもっと上手に弾けない、とあせる気持ち余計に指を動かさなくさせていました。けれど、お母さんの「大丈夫。」を聞いてから、安心して、自分を信じて、練習することができました。

すると、何度も間違えた難しい小節を一回で弾くことができました。

私のお母さんは、高校で国語を教えています。毎日、授業で使うプリントを作ったりしています。夜おそくまで仕事の準備をしているのに、私より早く起きて、朝ご飯を作ってくれます。テストの丸つけをしながら、洗濯もしてくれます。仕事と家事を両立させているお母さんを、私は尊敬しています。それだけ頼りにしているお母さんには、どんな苦労をさせているのか、お母さんに心配

をかけていないだろうか。この震災で、すごく考えさせられました。けれども、お母さんは一度も文句を言ったことがありません。私だったら、きつこう言います。

「もういや。」

「誰か代わって。」

「少しはお母さんのお手伝いしてよ。」

とにかく朝起きてから、夜寝るまでお母さんにはやる事がたくさんあります。それを毎日続けているのです。だから、お手伝いをしないで、ダラダラしているのを見ると、きつと腹が立つてくると思います。イライラしてくると思います。それでも、文句を一切言わないお母さんはとても、我慢強いと思います。今の私にはどうして真似はできませんが、これから大人になって私がお母さんになるまでに、我慢強くなるよう努力していきたいです。

「稚菜なら、大丈夫。」

という言葉を信じて……。

我慢強いところが長所であるお母さんは、大きな病気やけがもしたことがありません。お兄ちゃんを産んだ時や、私を産んだ時に入院しただけで、病気に

かかったり骨折をしたりして、入院したことは一度もありません。お母さんは、とても健康です。私は健康でいてくれるお母さんにとっても感謝しています。お母さんがこれからはきつと、今までと変わらず元気なままいてくれるように、私は何かしなくてはならないと思います。

その一つは、勉強です。学校の宿題や宿題以外の勉強を、お母さんに言われる前に、やってしまいたいと思います。お母さんが、私の勉強の事で気持ちをイライラさせることがないように、したいです。

もう一つは、お手伝いです。私は普段、お風呂洗いをよくします。お風呂洗いをすると、お母さんは

「ありがとう。助かるわ。」

とうれしそうに言ってくれます。だから、これからは晩ご飯の後の皿洗いにも挑戦したいです。お母さんの喜ぶ顔を、もつともつと見たいです。

お母さんがつかれているなあと思った時は、肩もみや足もみをしてあげたいと思います。

「お母さん、いつも本当にありがとう。お母さんが私のお母さんで良かったと思います。これからも、ずっとずっと元気でいてください。」